

社会科の授業づくりスタンダード【単元構想のデザイン】

～単元の内容や時間のまとまりを見通しながら行う授業改善～

東濃・飛騨教育事務所

◇単元を構想する要素

1～5のそれぞれの要素を相互に関連付けて単元を構想することが大切です。

1 学習指導要領の指導内容を踏まえて単元を通して付けたい力を明確にする。

- 単元のねらいや指導する内容を考える。
 - ・「理解させたいこと」は何か、「考えさせたいこと」は何かを明らかにする。
 - ・単元を通して指導しなければならない指導内容を明らかにする。

2 単元における教材化の視点を考える。

- 教材を通して、社会的事象をどのように提示するのかを考える。
 - ・授業者が社会的事象の意味や意義を考える。
 - ・授業者が単元の終末の児童生徒の姿をイメージしながら、教材がもつ事実について、「調べること」「考えること」「理解すること」を整理する。

3 単元の学習を方向付け、追究する単元の学習課題を考える。

- 社会的事象の特色や意味に迫る単元の学習課題を考える。
 - ・児童生徒の単元のまとめを想定した単元の学習課題を考える。

4 児童生徒が主体的に学ぶ問題解決的な単元の流れを考える。

- 単元における学習課題の解決に向けて、資料や見学などの体験的な活動をもとに調べ、社会的事象の特色や相互の関連、意味を考えたり、社会生活について理解したりする単元の学習活動の流れを考える。
 - ・教師が意図を明確にもち、児童生徒の思考の連続性や必然性を考える。

5 児童生徒がねらいに迫るための単位時間の学習活動を構想する。

- 「調べる」「話合う」「まとめる」など何のための活動であるか目的を明確にした学習活動を考える。
 - ・「調べる」…事実（資料）をもとに分かることや考えたことを明確にする。
 - ・「話合う」…焦点化された問いを解決する。
 - ・「まとめる」…事象と事象の関係性を整理する。

社会科の授業づくりスタンダード【単位時間のデザイン】

～学習の連続性や必然性、深まりを感じられる授業を目指して～

東濃・飛騨教育事務所

学習課題設定の場

- 本時追究し、解決する課題に必然があるかどうかを見直す。

課題のタイプ	なぜ・どうして	理由・要因・背景	どのような	内容・しくみ・様相
課題の分類	・驚き（直感） ・矛盾（事象間のズレ） ・既存の考え方と真逆 ・新規に入る情報 ・事象間に隠れている内容の追究 ・特色など共通点			

- ・学習課題の設定につながる具体的な事実から疑問が生まれる社会的事象（資料）を考える。
- ・児童生徒が社会的事象と出会い、驚きや疑問を感じるように工夫する。
- 指導計画の内容を吟味しながら、教師の意図と児童生徒の認識のズレをなくす指導を行う。

学習課題を見直すポイント

- ・児童生徒の興味・関心に合致しているか
- ・児童生徒の必要感に支えられているか
- ・児童生徒が見通しをもって追究できるものか
- ・学習内容の中核を占める本質に迫るものか
- ・確かな事実をもとにした課題になっているか

学習課題追究の場

- 学習課題の解決に向けて、考える足場となる（事実）や考える方向性を授業者が明確にもつ。
- ・写真やグラフ、地図、年表、図表、数字等事実を関連付けて考えられるよう資料を工夫する。
- ・資料をもとに追究するための視点を示し、学習課題を解決するための見通しをもたせる。

交流の場

- 個人追究や全体交流、小集団交流等における児童生徒の考えが、ねらいの達成に向けてどのように変容していくのかを具体的にとらえる。
- 児童生徒の思考が交流の中でどのように推移していくのかを見極め、発言内容に応じた問い返しを考える。
- 児童生徒の考えを広げ深めるために、ねらいに基づく問い返しを行う。
- 授業者が児童生徒の発言内容の差異やつながりを的確に聞き分けたり、児童生徒の思考を焦点化させたりする発問を行う。

まとめの場

- 本時学習した内容を振り返って、考えたりまとめたりすることができるように、板書にキーワード等を位置付ける。（一般化したこと、自分との関わりや変容、仲間との関わり、さらに考えてみたいことなど）